

5-3 今後の臨床発達心理士会の研修として希望するテーマ (自由記述)全回答

設問形式: 今後の臨床発達心理士会の研修として、希望するテーマがあれば自由にお書きください。

設問5-3に対する回答を内容によって分類してすべて紹介する。総計 292 件の入力回答があった。アセスメント技法の希望が最多で、ついで、行動療法を中心とした支援技法の希望が続いた。分類カテゴリーは次の 26 項目。

- (1) アセスメント(42件): 具体的な希望検査法、診断基準解説、検査結果の解釈、新しい検査法は早く、講習会・実習希望
- (2) 事例検討 (13件)
- (3) 当事者の思い (4件)
- (4) 支援技法 (21件): 認知行動療法、行動療法、その他の技法、支援法研修を求める支援分野
- (5) 相談技法・カウンセリング技法 (6件)
- (6) 発達障害(17件): 自閉症スペクトラム、研修内容・方法
- (7) 愛着・愛着障害 (12件)
- (8) 子育て・保護者支援・家族関係 (18件)
- (9) 児童虐待 (14件)
- (10) 社会性・コミュニケーション能力(10件)
- (11) 学校問題・学校教育・支援者教育 (16件)
- (12) 不登校・引きこもり (12件)
- (13) 社会的自立・就労支援(10件)
- (14) 高齢者 (9件)
- (15) 学習障害 (5件)
- (16) 言語・緘黙等 (7件)
- (17) 情動 (2件)
- (18) 感覚障害・感覚過敏 (2件)
- (19) 発達心理学一般 (6件)
- (20) 他職種連携 (12件)
- (21) 触法 (4件)
- (22) 依存症 (5件)
- (23) 自傷・摂食障害 (各 1件)
- (24) 遊び(3件)・仲間関係(1件)・自己制御(2件)
- (25) その他 (22件)
- (26) 研修の方法、研修制度のあり方への提案 (16件)

以下、分類カテゴリーごとに記述回答本文を掲載する。

<回答一覧>

1. アセスメント 42 件

1-1 具体的な検査法の希望

- ◎ 新版 K 式（3 件、うち 1 件は改訂部分）
- ◎ WISC5 日本版がでたらすぐに（2 件）
- ◎ MSPA（発達障害の要支援度評価尺度）などの成人期以降の発達検査法（とくに成人発達障害）
- ◎ LC スケール（言語・コミュニケーション発達スケール）、長所活用型指導支援（KABC-II）、ICD-11 の変更内容、絵画による発達心理診断
- ◎ 発達のアセスメント、行動観察によるアセスメント、発達障害と愛着障害を併せ持つ子どものアセスメントと支援、感覚の問題についてのアセスメントや支援、高次脳機能障害と発達障害との類似・鑑別について
- ◎ 乳幼児健診の現場で短時間でスクリーニングスキルがアップする研修

1-2 診断基準解説 2 件

- ◎ 診断基準、ICD-11 の変更内容

1-3 検査結果の解釈（6 件）

- ◎ 心理検査の実施法と分析法、発達検査結果の解釈とそれによる具体的支援法、検査結果の解釈、療育・教育場面における諸検査結果の活用の実際、子供の発達の見立て、心理アセスメントの研修や支援技法、種々のアセスメント法、療育、介入方法の紹介

1-4 新しい検査法は早く研修を（6 件）

- ◎ WISC5 日本版がでたらすぐに（2 件）、新版 K 式改訂部分、最新の発達支援や障害への考え方とアセスメント法、新しいアセスメント法や改定された心理検査は真っ先に、最新の検査

1-5 講習会・実習希望（5 件）

- ◎ 心理検査の実施法と分析法、検査バッテリー（知能検査）、発達検査講習・実習、発達検査の実技や理論

2. 事例検討（13 件）

2-1 ケース研究、ケース検討会

2-1-1 内容・方法を含む希望（5 件）

- ◎ SV 検討会、事例を深めるような研修、知能検査など各種検査法とその事例検討会、事例検討を継続的に、発達の近接領域課題についての具体的事例

3. 当事者の思い（4 件）

- ◎ 発達障害当事者の話 2 件、精神障害ご本人やそのご家族からの話、個人的な当事者体験談でない当事者研究

4. 支援技法（21 件）

4-1 認知行動療法関係（4 件）

- ◎ 認知行動療法、マインドフルネス、ACT（技法）

4-2 行動療法 2 件

- ◎ 応用行動分析、行動療法支援

4-3 その他の具体的支援法（4件）

- JASPER プログラム（対人コミュニケーション早期支援）、ふれあいペアレントプログラム、イラストによる育児のコツ紹介（尾崎康子先生）、長所活用型指導支援（KABC-II）

4-4 支援法研修を求める支援分野（10件）

- ペアレントトレーニング、園などの巡回相談のスキルアップ、学校でできるグレーゾーンの子供への現実的で具体的な支援、発達障害児の観察法とコンサルテーション、支援者支援、支援者メンタルヘルスの立て直し方や保ち方、療育に役立つ内容、日本語をうまく話せない外国籍の子どもに対する発達の観点を踏まえた支援、コロナ禍の生活の変化が子供たちの心身に及ぼす影響とそのケアについて、就学前施設、学校、発達相談や支援の場でできることすべきこと、ワーキングメモリーの弱さへの臨床対応

4-5 その他の意見

- 最新の支援技術、具体的な支援方法、各種支援者の経験談

5. 相談技法・カウンセリング技法（6件）

5-1 内容・方法を含む意見

- ASD 傾向の強い方の時間内に面接を構造化するコツ、面接技術や支援技術の実際（様子を見たり体験したりできるワークショップ）、発達相談

6. 発達障害(17件)

6-1 自閉症スペクトラム希望 3件

- 自閉症スペクトラム児が他児の気持ちを傷つけないようにする指導の仕方、未診断 ASD 疑いの引きこもり支援のアイデアやコツ

6-2 内容・方法についての希望 13

- 発達障害当事者の話 2件
- 発達障害の動向・検査法・支援方法、発達障害児者に対する理解・支援についての最新の知見やわが国での動向、発達障害に関する行政の動向
- 精神疾患の発達障害との鑑別や対応
- 発達障害の医療的アプローチ、子どもの発達障害と医療連携
- 就学前の高機能児支援、思春期と発達障害、軽度発達障害児者の支援の実際（軽度発達障害児者の青年期以降の発達）、大人の発達障害者への支援、発達障害の生涯支援

7. 愛着・愛着障害（12件）

- 愛着形成、愛着障害、愛着の生涯発達、
- 発達障がいと愛着障がいの見極め方、愛着障害と発達障害が重なる子の支援（米澤先生）
- 愛着の最新知見、愛着障害の理解と支援

8. 子育て・保護者支援・家族関係（18件）

- 親の発達と子どもの発達、乳幼児精神保健と家族の関係性、周産期障害
- 乳幼児期の子どもをもつ親支援や子育て支援、ペアレントトレーニング、母子関係(愛着)の支援、愛着障害や保護者の心理的支援、家族まるごとの子育て支援、母子父子、家族関係支援、就労母親支援

- 障害児者の兄弟支援、保護者が知的に低いもしくは発達上の困難さを持つ家庭への育児支援、周産期の家族支援
- 支援者と保護者との関わり方

9. 児童虐待（14件）

- 虐待等を受けた子どもの支援、虐待への対応、虐待未然防止のアウトリーチ支援、児童虐待防止に係る臨床発達心理士としての役割、事業所内虐待、スクールハラスメント対応、マルトリートメント家族への対応、虐待と発達障害の支援

10. 社会性・コミュニケーション能力(10件)

- 社会性の発達、コミュニケーションの発達
- with コロナ時代における子どもの発達（人との接触を減らすことが子どもたちの発達にあたる影響と大人が留意すべきこと）、コロナ対応での配慮点
- デジタル化が進む中でも必要な人間味のあるコミュニケーション環境の整え方（無駄と思われる活動にも意味があるということ：島根県の肥後功一先生）。
- 障害児の防災
- コミュニケーション障害やアスペルガー障害などの対人関係における障害の支援システムについて、障害があることも同士の相互交渉支援
- 男女間、地域のコミュニティ内のパートナーシップ支援（他職種連携含む）、共同行為の支援

11. 学校問題・学校教育・支援者教育（16件）

- 学校のユニバーサルデザインへの提案、学校における危機管理（発達障害に絡めて）、障害児福祉と学校教育との連携、通常学級の中に在籍しているLD児の支援、児童生徒の発達段階における支援、いじめと自殺、学齢期児童に多い困り感の実態把握とそれへの効果的な対応方法
- 幼児教育に関するテーマ、特別支援教育、学校現場に普及させることのできる知識理解やスキル、教育における心理学的なアプローチ、
- 知的障がい教育と発達障がい教育の境界がスペクトラム化している現状とその対応策、特別支援教育における専攻科のあるべき姿、障害のある大学生の実習時の合理的配慮、個別の教育支援計画、個別の指導計画の書き方

12. 不登校・引きこもり（12件）

- 不登校、不登園
- 発達障害や感覚過敏のある児童生徒の不登校について
- 8050問題（ひきこもり、不登校、うつ病）、成人の引きこもり支援（引きこもりになるまでの経過と心理）
- 不登校支援、引きこもり支援
- 引きこもりの支援関係者からの支援実践報告、引きこもり支援のあり方とその事例や課題

13. 社会的自立・就労支援(10件)

- 成人期の問題、成人期以降の課題、就労問題、障害児者の社会参加困難実態（障がい理解）、発達障害と就労、養護施設出所後の就労支援
- 就労支援、障害者雇用支援、発達障がい者や精神障害者の社会的自立支援への連携、

協調性運動障害（6件）

- 感覚運動の高次化、運動発達
- 協調性運動障害児の園での具体的支援、運動発達（粗大・微細）の学習指導要領や年間計画に役立つ支援内容

14. 高齢者（9件）

- 高齢者/老年期、成人・高齢者発達、中年や高齢者の臨床発達心理、高齢者の福祉関係、老年期の発達課題、認知症、発達障害者・知的障害者の高齢化対策（介護施設利用対応）
- 高齢者支援、老年期の障害者の介護・福祉支援

15. 学習障害（5件）

15-1 LD支援3件

- LD児童の学習支援、SLD（限局性学習症）支援

15-2 ディスレクシア支援2件

- ディスレクシアへの実践的対応と医療との連携

16. 言語・緘黙等（7件）

16-1 言語発達（2件）

- 言語発達の基礎知識、言語発達の遅れ

16-2 緘黙（4件）

- 場面緘黙対応

16-3 吃音（1件）

17. 情動（2件）

- 情動発達の基礎知識

18. 感覚障害・感覚過敏（2件）

- 感覚特性
- HSP（感覚過敏者）についての発達の研究成果

19. 発達心理学一般（6件）

- 色々な年齢段階の研修、ベーシックな発達についての理解を深め土台となる知識を確認できる内容、乳幼児の発達段階をもっと深く掘り下げた内容、生涯発達視点、社会・文化的アプローチや二人称の科学/心理学としての発達理論、思春期・青年期の発達、障がい重い子どもの発達

20. 他職種連携（12件）

- 多職種協働連携、他機関連携、学校現場と関係機関との連携、巡回相談員の立ち位置
- 多職種連携教育、福祉や教育等に関わる支援者の国の動向や制度、他職種理解と多職種連携のための組織心理学、医療現場で活躍できる内容

2 1. 触法 (4 件)

- 触法 (少年) 問題、少年犯罪者の心理や相談
- 子どもを取り巻く法律についての知識、少年非行と二次障害、マラーの分離個体化理論 (児童期並びに思春期における母子分離の影響)

2 2. 依存症 (5 件)

- ゲーム依存 (2 件)、ネットやスマホ中毒への対応、薬物の発達成長の視点からの知見

2 3. 自傷・摂食障害 (各 1 件)

- 摂食障害対応
- 学校でできる思春期の自傷行為への支援

2 4. 遊び(3 件)・仲間関係(1 件)・自己制御(2 件)

- 遊びの発達、発達と遊び、遊び文化と発達
- 仲間関係の発達
- 自己制御能力の発達、自己決定 (自己理解、自他認識)

2 5. その他

- メンタルヘルスサポートについて (労働者、管理者、産後、育児中、壮年期)、メンタルヘルス (子どもの精神医学的症状)
- ストレスマネジメント
- 神経系の発達、脳機能、ワーキングメモリの最新情報、MTBI (見えない脳損傷) および高次脳機能障害
- 実行機能を高める支援方法
- 「LGBT」の発達成長の視点からの知見
- 「妊娠中絶」発達成長の視点からの知見
- 性被害者支援
- 子どもの病気 (先天性疾患、難病など) についての知識
- 強度行動障害
- グリーフケア
- トラウマ
- 動作法
- 子どもの貧困
- 重症心身障害
- Assistive Technology (福祉機器・福祉用具)
- 優生思想問題、倫理、権利擁護
- 質的研究法
- 独立開業の方法

2 6. 研修の方法、研修制度のあり方への提案

- アセスメント資格制度を設けて認定する、各ライフステージの専門的立場として認められる研修を行いディプロマ等の発行に結びつける、医師資格の専門性のような形を目指して複数回の研修と内部試験など、高いスキルへの研修、医師においても専門分野が明記されているのだから心理においても対象や問題は分化されていいと思う。研修会も分化していくと良いと思う。
- 臨床発達心理士を育てるのはSVを取得していないとできないことなのではないでしょうか。医療現場でも活躍できる余地はあり、臨床発達心理士をどう育てていったらいいのか考えていました。
- ポイントの配分を臨床心理士と同じくらいにしてほしいです（5時間の研修会参加で2ポイント）。研修機会も少ないうえに、ポイントがあまりもらえないとなると、費用面やモチベーションの面でも今後の維持は厳しいと感じています。
- 土日業務の会員のための夜間研修会
- 地方では同じテーマで、場所をかえて実施
- コロナ禍でも抽選に外れずに学べる体制
- 臨床現場の生の声を聴く機会
- 支援者の職場での困りごとについての話し合い
- 研究者からの基本の確認と深い理解（1つの理論について深く知る）
- 多職種とのシンポジウム
- 実技的な技能研修
- グループワークを増やす
- 臨床発達心理士だけではなく、勉強したい方にも広く知識の吸収と知識の生産の経験を与えていただきたい
- 発達に関わる部分の研修をしっかりと強めることと並行して各行政機関などへのアピールをして欲しい。
- 行政との円滑連携のために、厚労省や地域行政が発達障害に関してどの講師に研修依頼をしているか、発達障害者支援センターや、児童発達支援センターなどの取り組み、ペアレントトレーニングやペアレントプログラムについての動向、実際に市町村行政はどういった子育て支援プログラムを活用しているか知りたい
- 予防心理(学)としての、モチベーションアップ研修（「褒める、認める、信じ切る、愛すること～大切な人への愛の伝え方」という本を出版した。人間関係の悩みを解消するためのノウハウや事例、ワークを通しての気づきが得られる。研修講師 OK（北海道支部から）